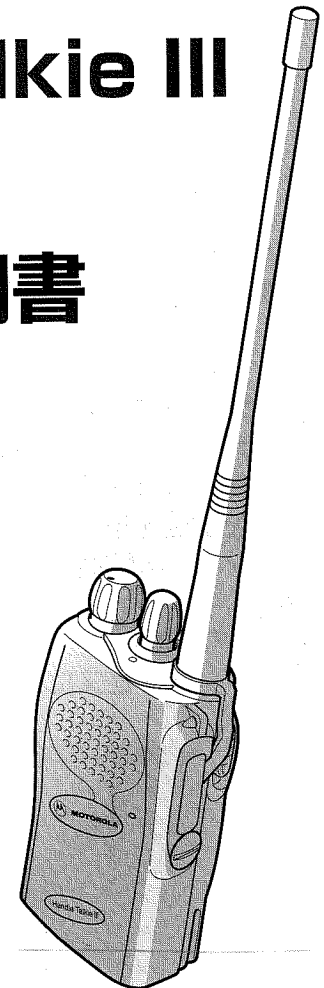




小エリア無線通信システム対応
業務用無線

Handie Talkie III

取扱説明書



モトローラ製品のお問い合わせ先.....03-3719-2231
ホームページ.....<http://motorola-bizunit.jp>

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、MOTOROLA、モトローラのロゴマーク及び®表示が付された商標は米国およびその他の国における Motorola, Inc. の登録商標です。文中に記載されている他社の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。
本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」(日本) 及び「米国輸出管理規制」による規制を受けますので、当製品を輸出する場合は、同法に基づく手続きが必要です。

販売元 株式会社スタンダード 東京都目黒区中目黒 4-8-8



6804113J27-C



©2009 STANDARD Co., Ltd.

JM-1

株式会社エクセリ 東京都中央区日本橋浜町2-30-1 IKビル6F / 大阪府大阪市淀川区西中島6-3-32
お問い合わせ総合ダイヤル 0120-880-200

目次

●目次	2
●はじめに	3
●安全上のご注意	4
●特長	11
●製品および付属品の確認	12
●各部の名称と機能	13
電源・ボリュームスイッチ	13
チャンネル切替スイッチ	13
送信ボタン	13
マイク	13
LEDランプ	13
サイドボタン1	14
サイドボタン2	14
●バッテリーの取り付け/取り外し	15
バッテリーを取り付ける	15
バッテリーを取り外す	15
●バッテリーの充電方法	16
●バッテリーを正しくお使いいただくために	19
●電源を入れる/切る	21
●音量を調整する	21
●チャンネルの切替	21
●送信	22
●受信	22
●アフターサービスについて	23

はじめに

このたびはモトローラの携帯用無線機Handie Talkie IIIをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

Handie Talkie IIIは信頼性および操作性に優れた小型で丈夫な無線機です。

本書はHandie Talkie IIIの標準的な操作方法について説明した取扱説明書です。ご使用前に必ずお読みください。

●ご注意

- ・通話は、無線局免許状に記載されている目的、通信の相手方および通信事項の範囲内で行ってください。ただし、人命の救助、洪水、火災などの災害時に、人命にかかわる通信を行なうときはこのような制限はありません。
- ・他人から頼まれて通信したり、他人の用件のために無線機を貸して使用することは電波法令で禁じられています。
- ・他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
- ・本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令に違反します。

●本文中のマークの意味は次のようになっています。

-  **危険** この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
-  **警告** この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
-  **注意** この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

お願い 性能を十分発揮できるように、お守りいただきたい事項です。

安全上のご注意

●Handie Talkie III本体をお使いいただく前に

電磁波への影響に対する規定を定めている国や国際的な規格に準拠する電磁波の暴露への認識と対応をし、安全で効率的な操作を行う上で重要な情報です。携帯用無線機Handie Talkie IIIをご使用になる前に以下の注意をお読みください。

無線を安全かつ効率的に操作するために、以下の指針をお守りください。

携帯用無線機Handie Talkie IIIの電源がONになっているとき、無線周波(RF)エネルギーを送・受信しています。周波数は348MHz帯を使用し、出力レベルは1Wです。

◎携帯型無線機の安全上の注意と電磁波の影響について



警告 本無線機をご使用になる前に、以下の安全にお使いになられるためと電磁波に対する米国および国際規格に適合するための安全上の注意をお読みください。

本安全上のご注意に記載されました内容は、2002年2月以前に出されました安全上のご注意を書き換えるものです。

◎電磁波の影響に対する規格への適合



注意 お使いになれる方が電磁波にさらされる可能性を認識しており、それらの電磁波の影響に対する管理を訓練することができる職場もしくは管理された用途での使用を前提にしております。本無線機は、民生の用途あるいは一般消費者向けなどの使用目的としては認可されておられません。

アメリカ連邦通信委員会(FCC)規格

FCCは携帯型無線機からの無線周波数の照射について安全基準を定めました。FCCは、アメリカ国内で販売される携帯型無線機に対して、その製造者に電磁波の安全規格に適合していることを求めています。無線機が職場や管理された環境での基準に適合した際、FCCはお使いになれる方も電磁波への曝露を認識するとともにそれを制御されることを要請しております。取扱説明書で記載の安全上の注意をよくお読みになり、電磁波の影響について理解いただき、管理をされるようお願いいたします。

モトローラの無線機は、本取扱説明書上で電磁波に対する安全上の注意を記載しております。

モトローラの無線機は下記の多くの国および国際的な規格と無線周波数エネルギーの人体への照射に対するガイドラインに適合するよう設計されております。本無線機は

IEEE(FCC)と非電離放射線防護国際委員会(ICNIRP)が定める最高50%送信/50%受信での使用法における無線周波数の電磁波環境における基準に適合しております。FCCの電磁波に対するガイドラインに適合する無線周波数のエネルギーの測定において、無線機は受信時や待ち受け時ではなく送信時のみ無線周波数のエネルギーを照射します。

注:FCCの規格の50%送信に無線機は適合しておりますが、無線機と共に買い上げの標準バッテリーは通常お使いになられる5-5-90のサイクル(5%送信-5%受信-90%待ち受け)を基本としております。

モトローラ無線機は下記の無線周波数エネルギー照射規格およびガイドラインに適合しております。

- United States Federal Communications Commission, Code of Federal Regulations; 47 CFR part 2 sub-part J
- American National Standards Institute (ANSI) / Institute of Electrical and Electronic Engineers (IEEE) C95.1-1992
- Institute of Electrical and Electronic Engineers (IEEE) C95.1-1999 Edition
- International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP) 1998
- Ministry of Health (Canada) Safety Code 6. Limits of Human Exposure to Radiofrequency Electromagnetic Fields in the Frequency Range from 3 kHz to 300 GHz, 1999
- Australian Communications Authority Radiocommunications (Electromagnetic Radiation - Human Exposure) Standard, 2001
- ANATEL, Brasil Regulatory Authority, Resolution 256 (April 11, 2001) "additional requirements for SMR, cellular and PCS product certification."

◎無線機運用における安全上の注意

電磁波の影響の管理と規格内での環境を満足する為に下記の点を必ずお守りください。

- 使用時間のうち50%以上の時間を送信に使わないで下さい。送信するには送信ボタン(PTT)を押します。受信するにはPTTボタンを離します。50%以下の時間内で送信することは、無線機は送信時に電磁波を出しますので重要なこととなります。
- 無線機は立てた状態で顔の前にマイク部分を持ってきて、少なくとも2.5cmから5cm離して通信してください。適切な距離離してお使いになることは、アンテナから出る電磁波の影響を低くすることになります。
- ベルト等に装着して通信する場合は、モトローラ指定のキャリングホルダーかケースをお使いください。他のものを使用した際に無線周波数の影響が基準やガイドラインを満足しないことがあります。

- ・ベルト等への装着又は顔の前での操作をしないときでも、無線機本体とアンテナは送信時身体から2.5cm離してお使いください。適切な距離離してお使いになることは、アンテナから出る電磁波の影響を低くすることになります。

- ・モトローラ指定のアンテナ、バッテリーおよびアクセサリをお使いください。指定以外のものをお使いの際、FCC規定のレベルを超えることがあります。モトローラ指定のアンテナ、バッテリーおよびアクセサリはお買い求めの販売店にお問い合わせいただくか、下記の本モトローラのホームページをご覧ください。

<http://2wayradio.mot.co.jp/jp/index.html>

ご不明な点がございましたら、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

◎混信等について

注：電磁環境適合性(EMC)を考慮したシールド、設計、もしくは設置を適切に行わないと、ほとんどすべての電子装置は電磁妨害(EMI)の影響を受けやすくなります。

・施設

電磁妨害を避ける為に無線機器の運用について指定のあるところでは無線機の電源をお切りください。病院や健康関連施設は電磁波の影響を受けやすい機器を使用している場合があります。

・航空機

使用上の制限が指定されているときは、航空機に搭乗される際は無線機の電源をお切りください。無線機をご使用になる場合は、航空会社の職員が指定する規定に従ってください。

・医療機器

ペースメーカー

米国の医療技術の委員会(AdvaMed)は携帯無線機との距離を15cm以上はなすことを推奨しております。この推奨は、米国食品医薬品局(FDA)のものと一致しています。医療施設内や混み合う満員電車の中などに入る場合、医療施設内の各種医療機器や計器あるいは個人の医療電子機器に影響を与える可能性があるため、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないで下さい。

ペースメーカーを付けている方は：

- 無線機の電源が入っているときは、ペースメーカーから無線機を15cm以上離してください。
- 胸のポケットに無線機を入れないようにして下さい。
- 妨害の可能性を最小限にするためにペースメーカーと反対側の耳を使用してください。
- 妨害の発生が疑われるときは、いかなる場合も、無線機の電源を直ちに切ってください。

補聴器

デジタル無線機の中には補聴器に影響を及ぼすものがあります。そのような妨害がありましたら、補聴器の製造メーカーにお問い合わせください。

その他の医療機器

その他なんらかの個人用医療機器をお使いでしたら、その製造メーカーにその機器が電磁波の影響に対して十分なシールドが施されているかどうかをお問い合わせください。また、かかりつけの医師にそのような情報をご相談ください。

◎運転中のご利用について

自動車運転中の無線機利用については、その地域での条例などをご確認ください。条例などには必ず従ってご利用ください。運転中にご使用になる場合には下記のことにご注意してください。

- ・運転と道路状況には十分注意をして下さい。
- ・ハンズフリー機器の設定がある場合にはハンズフリー機器をご使用ください。
- ・自動車運転中に無線機をご使用になる場合には、安全な場所に車を停車させてから無線通信を行なってください。

運用上の注意



警告 エアバッグ付きの自動車について

エアバッグは激しい勢いで膨張します。エアバッグ周辺ならびにエアバッグの広がる範囲内に通信機器を設置しないでください。通信機器が適切な場所に正しく設置されていないと、エアバッグが膨張した際に通信機器により直接またはエアバッグそのものの損傷により人体を損傷する可能性があります。

また、エアバッグの寸法、形状、広がる範囲などは自動車の型式や車種によって異なりますので、自動車製造メーカーおよび自動車販売店にご相談ください。

爆発の危険性がある大気状態

爆発性ガスなど大気状態に爆発の危険性が伴う区域では、防爆型(本質安全防爆(日本)、Factory Mutual(米国)、CSA(カナダ)、UL(米国)、CENELEC(欧州))として認定されている携帯無線機ではない場合は、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。また、バッテリーの交換やバッテリーの充電もしないでください。無線機あるいはその付属品によりスパークが発生し爆発を誘発する危険性があります。

危険地域としては、石油コンビナート、船舶のアンダーデッキ、燃料や化学物質の輸送・貯蔵施設、金属分などの微粒子や化学物質が空気中に含まれている区域などがあります。そのような地域ではその旨の注意書きがなされているところもあります。



警告 雷管と爆発作業を行なう地区

爆破作業への影響の可能性を避ける為、雷管の近くや爆破作業を行なう地区あるいは「無線機の電源をお切りください」と注意書きがある地区では無線機の電源を切り、指示に従ってください。



注意

必ず、下記の注意事項をお読みになってからご使用ください。

- ◎異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。
- ◎直射日光のあたる所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境に無線機本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。
- ◎接続端子に金属片等が触れないようにしてください。ショートによる火災や故障の原因になる場合があります。
- ◎強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。
- ◎アンテナが破損することがありますので、無線機を持つときは、アンテナの部分をつかまないでください。
- ◎無線機に壊れたアンテナをつけて使用しないでください。壊れたアンテナが肌を傷つけたり火傷をしたりする可能性があります。
- ◎接触不良の原因となりますので、オーディオアクセサリを使用しないときには、サイドカバーを付けてご使用ください。

●バッテリーをお使いいただく前に

バッテリーはお引き渡し時には、充分充電されていません。ご購入後の充電は、14～16時間の充電が必要となります。必ず充電してからお使いください。また、バッテリーをお使いになる前に以下の注意をお読み下さい。



危険

誤った取り扱いをすると、発熱・漏液・破裂のおそれがあり危険です。必ず、下記の危険事項をお読みになってからご使用ください。

- ◎充電の際には専用の充電器を使用してください。専用以外の充電器などで充電しないでください。
- ◎高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。
- ◎バッテリーの端子をショートさせないでください。持ち運ぶ際や保管する時は、端子が金属片などと接触しないようにしてください。全てのバッテリーは、電極部分に貴金属や鍵・チェーンなどの導電性の物質が触れると火傷等で人体に損傷を及ぼす可能性があります。導電性の物質は回路をショートさせ、熱を持つことがあります。
- ◎火の中に投入したり、加熱しないでください。
- ◎釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。
- ◎直接ハンダ付けしないでください。
- ◎分解や改造はしないでください。



注意

誤った取り扱いをすると、発熱・漏液・破裂のおそれがあります。必ず、下記の注意事項をお読みになってからご使用ください。

- ◎夏期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が低下し利用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。できるだけ 常温（20℃±5℃）でご使用ください。
- ◎水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたまま放置しないでください。
- ◎バッテリーを使用しない場合には、無線機本体からバッテリーを外して湿気の少ない場所で保管してください。

●取扱い上のお願い

お願い

- ◎電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。
- ◎無線機本体の清掃の際は、固めの豚毛のブラシに洗剤溶液（台所用洗剤を水に混ぜて作ったもの）を少量つけて軽くこすってください。
清掃後は、糸くずのつかない布できれいに拭き取ってください。
また洗剤の溶液がコネクタ付近、または溝や割れ目に残らないように注意してください。
- ◎無線機を直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。
- ◎溶剤やアルコールなどで無線機を清掃すると、無線機を傷つけたり破損したりすることがあります。

特 長

- 簡単操作
- 高音質、耐久性
- 16チャンネル
- 豊富なアクセサリ
- オートスケルチ
- アナログトーン・デジタルコードスケルチ対応
- バッテリーセーブ機能

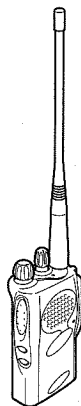
製品および付属品の確認

はじめに同梱品を確認してください。

●無線機本体およびアンテナ

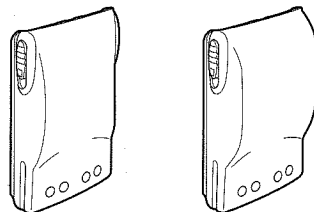
※アンテナは本体と一体になっています。

無理に取り外さないで下さい。



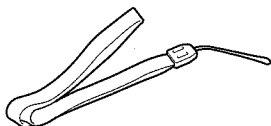
●バッテリー

1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー、
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー
のいずれかが同梱されています。

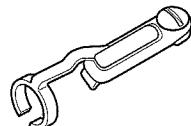


●取扱説明書（本書）

●ストラップ

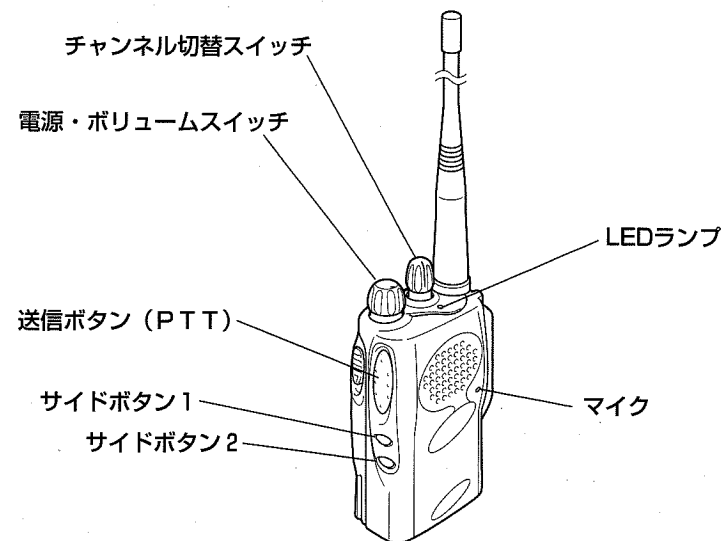


●ダストカバー



各部の名称と機能

■Handie Talkie III



●電源・ボリュームスイッチ

無線機の電源のオン・オフおよび音量の調整に使用します。

●チャンネル切替スイッチ

チャンネルの切り替えに使用します。

●送信ボタン（PTT）

送信ボタンを押し続けている間送信します。離すと受信状態となります。

●マイク

送信するときはマイクに向かって話します。

●LEDランプ

送受信の状態、バッテリーの状況、電源の状況などを点滅・点灯により表示します。

●サイドボタン1

通常はモニタボタンとして機能します。

ボタンを押すとスケルチが開いて「ザー」と音がします。

このチャンネルで通話されているときは音声が届きます。受信電波が弱く、スケルチが開きにくい場合などに使います。

1.5秒以上押しつづけると、「ピッ」と音がしてその後ボタンをはなしても同じ状態を保持します。もう一度押すと元の状態に戻ります。

●サイドボタン2

通常はバッテリーインジケータとして機能します。

ボタンを押すことで、LEDの点滅・点灯によりバッテリーの残量を確認することができます。

バッテリーレベル	LED表示
高（満充電）	緑
十分	黄
低	赤点滅
非常低	なし

補足 電圧レベル表示はあくまでも目安です。また、バッテリーの種類、充電状態、気温などの使用環境、機能の設定などによって、LED表示のタイミングやバッテリーの持続時間が多少異なります。

また、バッテリーの残量が少なくなった時、送信時に“ピロピロ”とアラームが鳴ります。

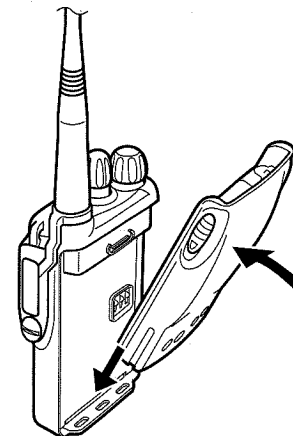
補足 サイドボタン1・2はプログラマブルです。販売店での設定により上記以外の動作をする場合がありますので、ご不明の場合は販売店にお問い合わせ下さい。

バッテリーの取り付け取り外し

注意：工場から出荷されたバッテリーは輸送時間、在庫期間等によって容量が低下しています。新規に購入したバッテリーは、内部物質の活性化のため、最初の4～6回の充電は必ず14～16時間充電し、容量を完全に回復させてからご使用ください。

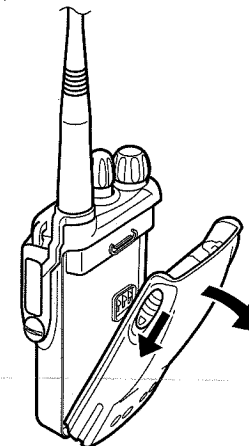
●バッテリーを取り付ける

- 1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。
- 2 本体背面下部の3つのスロットにバッテリーの下部を合わせます。
- 3 バッテリーの上部を無線機に押し付けるように「カチッ」と音がするまで押し込みます。



●バッテリーを取り外す

- 1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。
- 2 バッテリー上部の両側にある2つのラッチを押し下げます。
- 3 バッテリー上部を無線機本体から外します。



バッテリーの充電方法

バッテリーの残量が少なくなったときは、以下の方法で充電してください。

補足 家庭用（100V）から充電します。

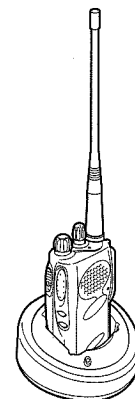
1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。

2 充電器のケーブルをACコンセントに差し込みます。

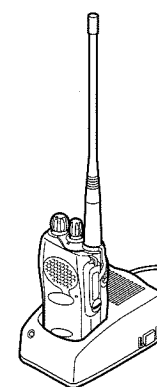
3 バッテリーを充電器に差し込みます。
バッテリーは無線機に取り付けたままでも、また無線機から取り外した単独の状態でも充電できます。急速充電が始まると、充電ランプが赤く点灯します。

注意 ・室温（リチウムイオンバッテリーは10℃～30℃）で充電してください。バッテリーは温度センサーが内蔵されています。凍結したり冷たくなったバッテリー（10℃以下）または熱くなったバッテリー（40℃以上）に対しては、すぐには充電を始めません。またエアコン等の風が直接あたる場所は避けてください。充電時間が長くなる場合があります。3時間以上赤ランプが点灯している場合にはもう一度設置環境を確認し、差し込み直してください。充電後バッテリーが暖かくなりますが、異常ではありません。

- ・充電器からバッテリーを引き抜く際、充電器本体を押さえながら引き抜いてください。
- ・充電ランプが赤く点滅する場合は、もう一度各端子を確かめ、差しこみ直してください。充電ランプが橙色（スタンバイ）になる場合は、バッテリーが冷えすぎていたり熱すぎます。しばらくすると充電を開始しますのでそのままお待ちください。
- ・充電器を使用中に、ラジオやテレビなどに雑音が入る場合には、充電器をラジオやテレビから離してください。



電源分離型急速充電器
(バッテリーのタイプに応じた
スペーサーをご使用ください。)



連結型充電器
(最大6台まで同時に充電
することができます。)

4 充電器のLED表示により充電の進み具合を確認することができます。

LED表示	状況
緑点灯1回	充電器起動
赤点滅	充電不可
黄点滅	充電器充電待機
赤点灯	充電中
緑点滅	約90%充電完了
緑点灯	充電完了

- 5** 充電ランプが緑色に点灯すると、急速充電完了です。
充電器が緑色の時は、トリクル充電（遅速充電）の状態になっています。

注意 充電ランプが赤色から緑色に切り替わった直後は、バッテリー容量の約80%しか充電されていません。さらに4時間以上充電を続けると、完全に充電できます。
なお、充電ランプが赤色から緑色に切り替わる目安時間は、下表のとおりです。

バッテリー	充電時間
1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー	約3時間
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	約3時間

補足 連続充電により充電器が少し暖まった状態で、次の空のバッテリーを差し込んだ場合、まれに充電器の熱により急速充電がすぐに終わってしまうことがあります。このような場合には、もう一度差し込み直すか、いったん充電器のコンセントを抜いてしばらく休止（約1時間）させてください。

バッテリーを正しくお使いいただくために

Handie Talkie IIIのバッテリーをお使いいただく上で、100%の性能を引き出すための正しい使用方法を解説します。

バッテリー持続時間

バッテリーの持続時間については以下の動作状態を基に計算したもので、実際の使用状況によって変化します。特に送信回数が多くなると使用時間が短くなります

バッテリー	持続時間
1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー	約10時間
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	約14時間

このとき次のような送受信の比率を想定しています。

送信：受信：待ち受け受信の比率＝5：5：90

充放電寿命（使用環境で差がでます）

各バッテリーの充電および放電の繰り返し回数（サイクル）寿命は次のとおりです。もし、1日数回充放電するような使い方をされる場合には、複数のバッテリーをお持ちになることをおすすめします。

1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー	約300回
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	約300回

使用温度範囲

各バッテリーの使用温度範囲は以下のとおりです。0℃以下の低温で使用される場合には、使用時間が短くなります。

1100mAh大容量リチウムイオンバッテリー	5℃～50℃
1400mAh特大容量リチウムイオンバッテリー	5℃～50℃

過放電について

無線機の電源スイッチを切り忘れたまま長時間放置されますとバッテリーが過放電となり、バッテリーの寿命が短くなる原因となります。長時間ご使用にならないときや容量がなくなってきた場合には、必ず無線機の電源スイッチを切るかバッテリーを無線機から取り外してください。

バッテリーの保存方法

室温で湿度の低い場所に保存してください。極端に高い温度になったり低い温度になる場所や、湿度の高い場所には保管しないでください。

完全充電した場合でも長期間（約6ヶ月～1年以上）保管しておくと、徐々に自然放電していきます。（月に20～30%自然放電します。）1年以上放置した場合使えなくなることがあります。

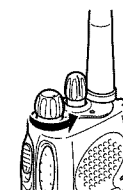
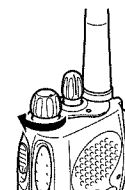
バッテリーの廃棄方法

古くなったバッテリーを廃棄するときには、お買い上げの販売店へご連絡ください。バッテリーをごみとして捨てると、環境汚染の原因になります。



大切な資源を守るため、リサイクルにご協力ください。

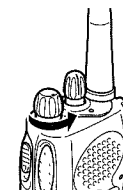
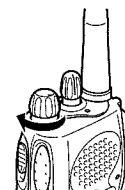
電源を入れる/切る



- ・電源/ボリュームスイッチを時計回りに回すと「ピッピッ」と音がして電源がオンになります。無線機が正常に起動しますと自己診断バスの鳴音と共に緑のLEDが1度点灯します。無線機が異常の場合は異常の鳴音を発します。
- ・電源/ボリュームスイッチを反時計回りに「カチッ」と音がするまで回すと電源がオフになります。

音量を調整する

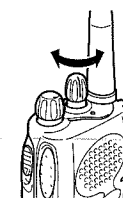
相手の声やキー操作音などの音量を調整します。



1. サイドボタン1を押して現在の音量を確認します。
サイドボタン1を押している間、ザー音が聞こえます。
2. 電源/ボリュームスイッチを左右に回して調整します。右に回すと音量が大きくなります。“カチッ”となるまで左に回すと、電源が切れてしまいます。

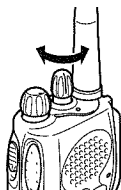
チャンネルの切替

チャンネル切替スイッチを回して使用するチャンネルに合わせます。



送信

- 1 チャンネル切替スイッチを回して使用するチャンネルに合わせます。



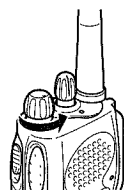
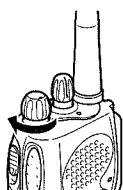
- 2 送信ボタン（PTT）を押してマイクから2.5 cmから5 cm離れたところからマイクに向かって話します。

- 3 話しが終わったら送信ボタン（PTT）を離します。

受信

- 1 チャンネル切替スイッチを使用するチャンネルに合わせます。

- 2 必要に応じてボリュームレベルを調整しながら聞きます。



補足 LEDの点灯と点滅

送信時	赤の点灯
受信時	赤の点滅

アフターサービスについて

Handie Talkie IIIは、お買い求めの販売店で定期的に点検を受け、常にベストな状態で使用ください。

- 1 保証期間について

(i) 無線機本体

保証期間は、お客様が運用を開始された日より2年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合には、お手数ですが、お買い上げの販売店へご連絡ください。当社修理規定に基づき、無償で修理いたします。

(ii) バッテリー

保証期間は、お客様が運用を開始された日より1年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合には、お手数ですが、お買い上げの販売店へご連絡ください。無償で交換をいたします。なお、交換品の保証期間は、交換時期に関係なく、最初のお買い上げより1年間が無償保証期間となります。

- 2 保証期間経過後の修理

お買い求めの販売店にて修理（有料）いたしますのでご相談ください。